

事後評価書（完了後の評価）

都道府県名	北海道	関係市町村	ノボリベツ 登別市、シラオイ 白老町
事業名	直轄特定漁港漁場整備事業（直轄漁港整備事業）		
地区名	ノボリベツ 登別	事業主体	国（北海道開発局）

I 基本事項

1. 地区概要			
漁港名（種別）	登別漁港（第3種）	漁場名	-
陸揚金額	2,469 百万円	陸揚量	12,236 トン
登録漁船隻数	57 隻	利用漁船隻数	126 隻
主な漁業種類	刺網、サケ定置網、カゴ	主な魚種	スケトウダラ、サケ類、ツブ
漁業経営体数	60 経営体	組合員数	87 人
地区の特徴	登別漁港は、北海道胆振地方の中部に位置し、周辺海域で操業するスケトウダラ刺網、サケ定置網等の沿岸漁業及び道内外のイカ釣り漁業の流通拠点として重要な役割を担っている。		
2. 事業概要			
事業目的	胆振太平洋圏域の流通拠点として、外郭施設の整備により、漂砂による航路埋没及び港内静穏度を改善し、漁業活動の効率化を図る。また、岸壁、用地及び道路の整備により、港内の狭隘を解消し、漁業活動の効率化を図る。さらに、屋根付き岸壁等の整備により、水産物の衛生管理対策及び就労環境の改善を図る。		
主要工事計画	東防波堤L=200m、-3.0m岸壁L=240m、-3.5m岸壁L=190m ほか		
事業費	8,100百万円	事業期間	平成14年度～平成24年度

II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	
<p>本事業では、平成13年に事前評価を実施し、経済効果の妥当性について評価を行った。分析の算定基礎となった利用漁船隻数については、スルメイカの漁場形成の影響で外来利用漁船隻数が減少している。また、衛生管理対策施設の追加等により事業費が計画当初より増加したため、費用便益比は平成13年の2.00から平成30年の1.05へと減少している。</p>	
2. 事業効果の発現状況	
<p>事業実施以前は、漂砂による航路埋没が発生しており、港内静穏度が十分に確保されておらず、非効率な作業を強いられていたが、外郭施設の整備により静穏度が確保されたことで、漁船航行時間の短縮、出漁日数の増加が図られた。また、岸壁、用地及び道路の整備により、港内の狭隘が解消され、陸揚げから出荷に至る漁業活動の効率化が図られた。さらに、衛生管理対策施設が未整備のため、陸揚げ・荷さばき時において漁獲物の鮮度低下や鳥糞などの異物混入が懸念されていたが、屋根付き岸壁の整備により、水産物の品質・衛生管理対策による魚価下落防止が図られたことに加え、就労環境の改善が図られた。</p>	

3. 事業により整備された施設の管理状況				
<p>本事業により整備された施設は、漁港管理者である北海道が漁港漁場整備法第26条の規定に基づき漁港管理規程を定め、これに従い、適正に漁港の維持、保全、運営その他の漁港の維持管理を行っている。</p>				
4. 事業実施による環境の変化				
<p>事業実施に当たっては、騒音、振動をはじめ、水質汚濁等の環境への影響に配慮したことから、環境の変化はない。なお、岸壁整備に当たり、漁業作業排水等が港内に直接流下することがないように、排水機能を確保し、港内水域環境の保全を図った。</p>				
5. 社会経済情勢の変化				
<p>背後地区人口は減少傾向にあるものの、水産物のブランド化の推進等によって地域産業の活性化が図られ、若年層が継続的に着業し漁業後継者は確保されている状況にある。また、登別市の観光入込者数や宿泊者数も年々増加傾向にあり、観光業と連携を図る水産業の重要性に変化はなく、本事業が重要な役割を果たしている。</p>				
6. 今後の課題				
<p>本事業により、衛生管理対策が推進され一定の効果は発現しているが、依然、野天での陸揚作業等を余儀なくされている港区があり、更なる衛生管理対策の強化が課題となっている。</p> <p>このため、平成25年度に新たな特定漁港漁場整備事業計画を策定し、屋根付き岸壁等の整備による衛生管理対策の強化を推進している。</p>				
7. 事業の投資効果が十分見込まれたか				
平成13年度評価時の 費用便益比B/C	2.00	現時点の B/C	1.05	※別紙「費用対効果分析 集計表」のとおり

Ⅲ 総合評価

<p>本事業では胆振太平洋圏域の流通拠点として重要な役割を担っている登別漁港において、漂砂による航路埋没及び港内静穏度を改善し、漁業活動の安全確保を図るための外郭施設の整備を行い、港内の狭隘を解消し、漁業活動の効率化を図るための岸壁、用地及び道路の整備、水産物の衛生管理対策及び就労環境の改善を図るための屋根付き岸壁等の整備を行った。</p> <p>貨幣価値化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、費用便益比は1.0を超えており、経済効果についても確認されている。</p> <p>また、貨幣価値化が困難な効果についても、水産物のブランド化による消費拡大及び安心安全な水産物の供給による観光産業の活性化が確認されている。</p> <p>以上の結果から、本事業は登別漁港において漁業経営の安定及び地域経済の振興に寄与したものとされており、想定した事業効果の発現が認められた。</p>
--

費用対効果分析集計表

1 基本情報

都道府県名	北海道	地区名	ノボリベツ 登別
事業名	直轄漁港整備事業	施設の耐用年数	50年

2 評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の 評価項目 及び 便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	8,385,336
②漁獲機会の増大効果			1,112,983	千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果				千円
④漁獲物付加価値化の効果			1,832,386	千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就業者の労働環境改善効果	3,058,614	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果		千円
		⑨避難・救助・災害対策効果		千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬施設利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	14,389,319	千円
総費用額（現在価値化）		C	13,715,598	千円
費用便益比		B/C	1.05	

3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

- ・水産物のブランド化による消費拡大
- ・安心安全な水産物の供給による観光産業の活性化

直轄特定漁港漁場整備事業 登別地区 事業概要図

〔整理番号2〕



登別地区 直轄特定漁港漁場整備事業の効用に関する説明資料

1. 事業概要

- (1) 事業目的 : 胆振太平洋圏域の流通拠点として、漂砂による航路埋没や港内静穏度を改善し、漁業活動の効率化を図るため、外郭施設を整備する。また、港内の狭隘を解消し、漁業活動の効率化を図るため、岸壁、用地、道路を整備する。さらに、水産物の衛生管理対策、就労環境の改善を図るため、屋根付き岸壁等を整備する。
- (2) 主要工事計画 : 東防波堤 200m、-3.0m岸壁 240m、-3.5m岸壁 190m ほか
- (3) 事業費 : 8,100百万円
- (4) 工期 : 平成14年度～平成24年度

2. 総費用便益比の算定

「水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン」(平成29年4月改訂 水産庁)及び同「参考資料」(平成30年5月改訂 水産庁)等に基づき算定。

(1) 総費用総便益比の総括

区分	算定式	数値
総費用(現在価値化)	①	13,715,598 (千円)
総便益額(現在価値化)	②	14,389,319 (千円)
総費用総便益比	②÷①	1.05

(2) 総費用の総括

施設名	整備規模	事業費(千円)
東防波堤	L= 200.0 m	2,913,400
西防波堤	L= 85.0 m	387,000
西護岸	L= 230.0 m	861,800
突堤	L= 30.0 m	436,000
-3.0m岸壁	L= 240.0 m	1,498,300
-3.5m岸壁	L= 190.0 m	929,200
-3.5m岸壁(改良)	L= 190.1 m	405,600
-3.0m泊地	A= 8,500 m ²	175,000
道路	L= 487.0 m	96,900
用地	A= 15,800 m ²	375,800
用地護岸	L= 12.8 m	21,000
計		8,100,000
維持管理費等		694,150
総費用(消費税込)		8,794,150
内、消費税額		436,547
総費用(消費税抜)		8,357,603
現在価値化後の総費用		13,715,598

(3) 年間標準便益

効果項目	区分	年間標準 便益額 (千円)	効果の要因(主要な内容)
水産物生産コストの削減効果		300,690	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外郭施設の整備による漁船航行時間の短縮 ・ 岸壁の整備による陸揚作業時間の短縮 ・ 岸壁の整備による出漁準備作業時間の短縮 ・ 岸壁の整備による漁船耐用年数の延長 ・ 岸壁の整備による荷さばき作業時間の短縮 ・ 用地・道路等の整備による出荷時の集荷及び運搬作業時間の短縮 ・ 屋根付き岸壁等の整備による除雪作業時間の短縮 ・ 屋根付き岸壁等の整備による陸揚・荷さばき時の準備作業時間の短縮 ・ 道路・用地等の整備による車両の移動・駐車作業時間の短縮
漁獲機会の増大効果		40,941	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外郭施設の整備による出漁日数の増加
漁獲物付加価値化の効果		63,799	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根付き岸壁等の整備による魚価の安定化
漁業就業者の労働環境改善効果		107,016	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岸壁の整備による出漁準備作業環境の改善 ・ 屋根付き岸壁等の整備による陸揚・荷さばき作業環境の改善 ・ 用地・道路等の整備による出荷時の集荷及び運搬作業環境の改善
計		512,446	

(4) 費用及び便益の現在価値算定表

評価期間	年度	割引率	デフレータ	費用(千円)			便益額(千円)						
				事業費 (維持管理費 含む)	事業費 (税抜)	現在価値 (維持管理費 含む)	水産物生 産コスト の削減効 果	漁獲機会 の増大効 果	漁獲物付 加価値化 の効果	漁業就業 者の労働 環境改善 効果	計	現在価値	
				①	②	①×②×③					④	①×④	
-16	14	1.873	1.197	99,800	95,048	213,096	0	0	0	0	0	0	
-15	15	1.801	1.222	199,700	190,190	418,574	0	0	0	0	0	0	
-14	16	1.732	1.224	294,700	280,667	595,005	0	0	0	0	0	0	
-13	17	1.665	1.223	701,400	668,000	1,360,245	0	0	0	0	0	0	
-12	18	1.601	1.199	979,300	932,667	1,790,347	0	0	0	0	0	0	
-11	19	1.539	1.210	969,795	923,614	1,719,945	29,272	0	13,592	20,716	63,580	97,850	
-10	20	1.480	1.207	999,395	951,805	1,700,266	29,272	0	13,592	20,716	63,580	94,098	
-9	21	1.423	1.133	1,445,995	1,377,138	2,220,303	29,272	0	13,592	20,716	63,580	90,474	
-8	22	1.369	1.089	551,358	525,103	782,845	29,272	0	13,592	20,716	63,580	87,041	
-7	23	1.316	1.130	1,093,358	1,041,293	1,548,486	29,272	0	13,592	20,716	63,580	83,671	
-6	24	1.265	1.090	772,871	736,068	1,014,927	29,272	0	13,592	20,716	63,580	80,429	
-5	25	1.217	1.094	13,883	13,222	17,604	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	623,647	
-4	26	1.170	1.047	13,883	12,855	15,747	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	599,562	
-3	27	1.125	1.029	13,883	12,855	14,881	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	576,502	
-2	28	1.082	1.026	13,883	12,855	14,271	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	554,467	
-1	29	1.040	1.000	13,883	12,855	13,369	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	532,944	
0	30	1.000	1.000	13,883	12,855	12,855	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	512,446	
1	31	0.962	1.000	13,883	12,855	12,367	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	492,973	
2	32	0.925	1.000	13,883	12,855	11,891	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	474,013	
3	33	0.889	1.000	13,883	12,855	11,428	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	455,564	
4	34	0.855	1.000	13,883	12,855	10,991	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	438,141	
5	35	0.822	1.000	13,883	12,855	10,567	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	421,231	
6	36	0.790	1.000	13,883	12,855	10,155	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	404,832	
7	37	0.760	1.000	13,883	12,855	9,770	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	389,459	
8	38	0.731	1.000	13,883	12,855	9,397	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	374,598	
35	65	0.253	1.000	13,883	12,855	3,252	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	129,649	
36	66	0.244	1.000	13,883	12,855	3,137	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	125,037	
37	67	0.234	1.000	13,883	12,855	3,008	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	119,912	
38	68	0.225	1.000	13,883	12,855	2,892	300,690	40,941	63,799	107,016	512,446	115,300	
39	69	0.217	1.000	13,188	12,211	2,650	271,418	40,941	50,207	86,300	448,866	97,404	
40	70	0.208	1.000	13,188	12,211	2,540	271,418	40,941	50,207	86,300	448,866	93,364	
41	71	0.200	1.000	13,188	12,211	2,442	271,418	40,941	50,207	86,300	448,866	89,773	
42	72	0.193	1.000	12,525	11,597	2,238	271,418	40,941	50,207	86,300	448,866	86,631	
43	73	0.185	1.000	12,525	11,597	2,145	271,418	40,941	50,207	86,300	448,866	83,040	
44	74	0.178	1.000	11,012	10,196	1,815	271,418	40,941	50,207	86,300	448,866	79,898	
計				8,794,150		13,715,598	計						14,389,319

※評価期間は、便益対象施設が複数ある場合、各施設の整備毎に効果が発生するものとして算定

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

3. 効果額の算定方法

(1) 水産物生産コストの削減効果

① 外郭施設整備による漁船航行時間の短縮

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	20	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	31	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	21	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	25	
	カレイ刺網漁業(10~20 t)	(隻)	1	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	6	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	28	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	7	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	20	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(隻)	19	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(隻)	23	
	その他刺網漁業(10~20 t)	(隻)	1	
	イカ釣り漁業(5~10 t)	(隻) ①	1	
	イカ釣り漁業(10~20 t)	(隻)	1	
	イカ釣り漁業(外来)(3~5 t)	(隻)	3	
	イカ釣り漁業(外来)(5~10 t)	(隻)	2	
	イカ釣り漁業(外来)(10~20 t)	(隻)	3	
	ホッキ桁網漁業(3~5 t)	(隻)	21	
	エビ籠漁業(3~5 t)	(隻)	1	
	エビ籠漁業(5~10 t)	(隻)	26	
	カニ籠漁業(5~10 t)	(隻)	16	
	ツブ籠漁業(5~10 t)	(隻)	14	
	タコ箱漁業(3~5 t)	(隻)	7	
	サケ定置網漁業(春)(10~20 t)	(隻)	2	
	サケ定置網漁業(秋)(10~20 t)	(隻)	2	
	対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年)	17
		カレイ刺網漁業	(日/年)	9
		タラ刺網漁業	(日/年)	17
ホッケ刺網漁業		(日/年)	19	
その他刺網漁業		(日/年)	6	
イカ釣り漁業		(日/年)	17	
イカ釣り漁業(外来)		(日/年)	8	
ホッキ桁網漁業		(日/年) ②	14	
エビ籠漁業		(日/年)	17	
カニ籠漁業		(日/年)	7	
ツブ籠漁業		(日/年)	5	
タコ箱漁業		(日/年)	7	
サケ定置網漁業(春)		(日/年)	14	
サケ定置網漁業(秋)		(日/年)	12	
対象作業人数		スケトウダラ刺網漁業	(人/隻)	3
		カレイ刺網漁業	(人/隻)	2
	タラ刺網漁業	(人/隻)	3	
	ホッケ刺網漁業	(人/隻)	3	
	その他刺網漁業	(人/隻)	2	
	イカ釣り漁業	(人/隻)	2	
	イカ釣り漁業(外来)	(人/隻)	2	
	ホッキ桁網漁業	(人/隻) ③	3	
	エビ籠漁業	(人/隻)	3	
	カニ籠漁業	(人/隻)	4	
	ツブ籠漁業	(人/隻)	3	
	タコ箱漁業	(人/隻)	2	
	サケ定置網漁業(春)	(人/隻)	8	
	サケ定置網漁業(秋)	(人/隻)	8	

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

区分		数量	備考
作業時間	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業 (時間/日)	0.67
		カレイ刺網漁業 (時間/日)	0.67
		タラ刺網漁業 (時間/日)	0.67
		ホッケ刺網漁業 (時間/日)	0.67
		その他刺網漁業 (時間/日)	0.67
		イカ釣り漁業 (時間/日)	0.67
		イカ釣り漁業(外来) (時間/日)	0.67
		ホッキ桁網漁業 (時間/日)	0.67
		エビ籠漁業 (時間/日)	0.67
		カニ籠漁業 (時間/日)	0.67
		ツブ籠漁業 (時間/日)	0.67
		タコ箱漁業 (時間/日)	0.67
		サケ定置網漁業(春) (時間/日)	0.67
		サケ定置網漁業(秋) (時間/日)	0.67
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業 (時間/日)	0.17
		カレイ刺網漁業 (時間/日)	0.17
		タラ刺網漁業 (時間/日)	0.17
		ホッケ刺網漁業 (時間/日)	0.17
		その他刺網漁業 (時間/日)	0.17
		イカ釣り漁業 (時間/日)	0.17
		イカ釣り漁業(外来) (時間/日)	0.17
		ホッキ桁網漁業 (時間/日)	0.17
		エビ籠漁業 (時間/日)	0.17
		カニ籠漁業 (時間/日)	0.17
		ツブ籠漁業 (時間/日)	0.17
		タコ箱漁業 (時間/日)	0.17
		サケ定置網漁業(春) (時間/日)	0.17
		サケ定置網漁業(秋) (時間/日)	0.17
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(10~20 t) (円/時間)	2,164	
	タラ刺網漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	タラ刺網漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(10~20 t) (円/時間)	2,164	
	イカ釣り漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	イカ釣り漁業(10~20 t) (円/時間)	2,164	
	イカ釣り漁業(外来)(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	イカ釣り漁業(外来)(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	イカ釣り漁業(外来)(10~20 t) (円/時間)	2,164	
	ホッキ桁網漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	エビ籠漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	エビ籠漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	カニ籠漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	ツブ籠漁業(5~10 t) (円/時間)	2,228	
	タコ箱漁業(3~5 t) (円/時間)	1,436	
	サケ定置網漁業(春)(10~20 t) (円/時間)	2,164	
	サケ定置網漁業(秋)(10~20 t) (円/時間)	2,164	

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)

区分		数量	備考
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t) (千円/年)	732	①×②×③×(④-⑤)×⑥/1,000 ※漁船階層別・漁業種別に算出
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t) (千円/年)	1,761	
	カレイ刺網漁業(3~5 t) (千円/年)	271	
	カレイ刺網漁業(5~10 t) (千円/年)	501	
	カレイ刺網漁業(10~20 t) (千円/年)	19	
	タラ刺網漁業(3~5 t) (千円/年)	220	
	タラ刺網漁業(5~10 t) (千円/年)	1,591	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t) (千円/年)	286	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t) (千円/年)	1,270	
	その他刺網漁業(3~5 t) (千円/年)	164	
	その他刺網漁業(5~10 t) (千円/年)	307	
	その他刺網漁業(10~20 t) (千円/年)	13	
	イカ釣り漁業(5~10 t) (千円/年) ⑦	38	
	イカ釣り漁業(10~20 t) (千円/年)	37	
	イカ釣り漁業(外来)(3~5 t) (千円/年)	34	
	イカ釣り漁業(外来)(5~10 t) (千円/年)	36	
	イカ釣り漁業(外来)(10~20 t) (千円/年)	52	
	ホッキ桁網漁業(3~5 t) (千円/年)	633	
	エビ籠漁業(3~5 t) (千円/年)	37	
	エビ籠漁業(5~10 t) (千円/年)	1,477	
	カニ籠漁業(5~10 t) (千円/年)	499	
	ソブ籠漁業(5~10 t) (千円/年)	234	
	タコ箱漁業(3~5 t) (千円/年)	70	
	サケ定置網漁業(春)(10~20 t) (千円/年)	242	
	サケ定置網漁業(秋)(10~20 t) (千円/年)	208	
年間便益額	千円/年	10,732	⑦の合計

② 岸壁整備による陸揚作業時間の短縮

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(隻) ①	18	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	30	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	18	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	25	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	6	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	28	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	7	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	20	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(隻)	18	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(隻)	23	
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年) ②	120	
	カレイ刺網漁業	(日/年)	22	
	タラ刺網漁業	(日/年)	120	
	ホッケ刺網漁業	(日/年)	120	
	その他刺網漁業	(日/年)	26	
対象作業人数	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻) ③	3	
	カレイ刺網漁業	(人/隻)	2	
	タラ刺網漁業	(人/隻)	3	
	ホッケ刺網漁業	(人/隻)	3	
	その他刺網漁業	(人/隻)	2	
作業時間	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日) ④	1.25
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	1.25
		タラ刺網漁業	(時間/日)	1.25
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	1.25
		その他刺網漁業	(時間/日)	1.25
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日) ⑤	0.50
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	0.50
		タラ刺網漁業	(時間/日)	0.50
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	0.50
		その他刺網漁業	(時間/日)	0.50
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間) ⑥	1,436	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年) ⑦	6,979	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	18,047	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	853	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	1,838	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	2,326	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	16,844	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	2,714	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	12,031	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	1,008	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	1,999	
年間便益額	千円/年	64,639	⑦の合計	

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)

①×②×③×(④-⑤)×⑥/1,000
 ※漁船階層別・漁業種別に算出

③ 岸壁整備による出漁準備作業時間の短縮

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	15	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	13	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	3	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	14	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	4	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	10	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(隻)	11	
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年)	120	
	カレイ刺網漁業	(日/年)	22	
	タラ刺網漁業	(日/年)	120	
	ホッケ刺網漁業	(日/年)	120	
	その他刺網漁業	(日/年)	26	
対象作業人数	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻)	3	
	カレイ刺網漁業	(人/隻)	2	
	タラ刺網漁業	(人/隻)	3	
	ホッケ刺網漁業	(人/隻)	3	
	その他刺網漁業	(人/隻)	2	
作業時間	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日)	1.75
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	1.75
		タラ刺網漁業	(時間/日)	1.75
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	1.75
		その他刺網漁業	(時間/日)	1.75
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日)	1.50
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	1.50
		タラ刺網漁業	(時間/日)	1.50
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	1.50
		その他刺網漁業	(時間/日)	1.50
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	1,163	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	3,008	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	142	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	319	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	388	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	2,807	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	517	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	2,005	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	168	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	319	
年間便益額	千円/年	10,836	⑦の合計	

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)

①×②×③×(④-⑤)×⑥/1,000
 ※漁船階層別・漁業種別に算出

④ 岸壁整備による漁船耐用年数の延長

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	漁船(5~10 t) (隻)	① 3	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
	漁船(10~20 t) (隻)	1		
平均総トン数	漁船(5~10 t) (トン/隻)	② 9.6		
	漁船(10~20 t) (トン/隻)	16.0		
漁船耐用年数	[整備前]	漁船(5~10 t) (年)		③ 7.00
		漁船(10~20 t) (年)		7.00
	[整備後]	漁船(5~10 t) (年)		④ 10.17
		漁船(10~20 t) (年)		10.17
漁船建造費	漁船(5~10 t) (千円/トン)	⑤ 3,589		造船造機統計調査(国土交通省)のFRP製漁船(20t未満)より算定
	漁船(10~20 t) (千円/トン)			
係留月数	漁船(5~10 t) (月)	⑥ 12.0	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
	漁船(10~20 t) (月)			
耐用年数の延長	漁船(5~10 t) (千円/年)	⑦ 4,603	①×②×(1/③-1/④)×⑤×⑥/12月 ※漁船階層別に算出	
	漁船(10~20 t) (千円/年)			2,557
年間便益額 千円/年		7,160	⑦の合計	

⑤ 岸壁整備による荷さばき作業時間の短縮

区分		数量	備考		
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t) (隻)	①	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査		
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t) (隻)			9	
	カレイ刺網漁業(3~5 t) (隻)			15	
	カレイ刺網漁業(5~10 t) (隻)			9	
	タラ刺網漁業(3~5 t) (隻)			13	
	タラ刺網漁業(5~10 t) (隻)			3	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t) (隻)			14	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t) (隻)			4	
	その他刺網漁業(3~5 t) (隻)			10	
	その他刺網漁業(5~10 t) (隻)			9	
対象日数	スケトウダラ刺網漁業 (日/年)	②			
	カレイ刺網漁業 (日/年)			120	
	タラ刺網漁業 (日/年)			22	
	ホッケ刺網漁業 (日/年)			120	
	その他刺網漁業 (日/年)			120	
対象作業人数	[乗組員]	スケトウダラ刺網漁業 (人/隻)	③	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
		カレイ刺網漁業 (人/隻)			3
		タラ刺網漁業 (人/隻)			2
		ホッケ刺網漁業 (人/隻)			3
		その他刺網漁業 (人/隻)			3
	[陸上作業員]	スケトウダラ刺網漁業 (人/隻)			2
		カレイ刺網漁業 (人/隻)			7
		タラ刺網漁業 (人/隻)			4
		ホッケ刺網漁業 (人/隻)			5
		その他刺網漁業 (人/隻)			4
作業時間	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業 (時間/日)	⑤		
		カレイ刺網漁業 (時間/日)			5.00
		タラ刺網漁業 (時間/日)			3.00
		ホッケ刺網漁業 (時間/日)			2.00
		その他刺網漁業 (時間/日)			3.50
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業 (時間/日)			3.00
		カレイ刺網漁業 (時間/日)			3.75
		タラ刺網漁業 (時間/日)			2.17
		ホッケ刺網漁業 (時間/日)			1.33
		その他刺網漁業 (時間/日)			2.50

区分		数量	備考
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	タラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	タラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
一般利用者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,922	毎月勤労統計調査 地方調査(平成30年5月北海道総合政策部情報統計局)(別紙参照)
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	カレイ刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	カレイ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	タラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	タラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	ホッケ刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	ホッケ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	その他刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	その他刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	23,979	①×②×(③×(⑤-⑥)×⑦)+④×(⑤-⑥)×⑧/1,000 ※漁船階層別・漁業種別に算出
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	45,311	
	カレイ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	1,735	
	カレイ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	2,883	
	タラ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	3,357	
	タラ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	18,341	
	ホッケ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	5,758	
	ホッケ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	17,246	
	その他刺網漁業(3~5t) (千円/年)	2,424	
	その他刺網漁業(5~10t) (千円/年)	3,339	
年間便益額	千円/年	124,373	⑨の合計

⑥ 用地・道路等の整備による出荷時の集荷及び運搬作業時間の短縮

区分		数量	備考
対象フォークリフト台数	スケトウダラ刺網漁業 (台)	① 10	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象日数	スケトウダラ刺網漁業 (日/年)	② 120	
対象作業人数	スケトウダラ刺網漁業 (人/台)	③ 1	
作業時間	[整備前] スケトウダラ刺網漁業 (時間/日)	④ 3.50	
	[整備後] スケトウダラ刺網漁業 (時間/日)	⑤ 2.75	
一般利用者労務単価	スケトウダラ刺網漁業 (円/時間)	⑥ 1,922	毎月勤労統計調査 地方調査(平成30年5月北海道総合政策部情報統計局)(別紙参照)
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業 (千円/年)	⑦ 1,730	①×②×③×(④-⑤)×⑥/1,000
年間便益額	千円/年	1,730	⑦の合計

⑦ 屋根付き岸壁整備による除雪作業時間の短縮

区分		数量	備考
対象作業人数	[整備前]	(人) ①	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
	[整備後]	(人) ②	
作業時間	[整備前]	(時間/回) ③	
	[整備後]	(時間/回) ④	
対象回数	(回/年) ⑤	8.4	
一般利用者労務単価	(円/時間) ⑥	1,922	
作業時間の短縮	(千円/年) ⑦	969	(①×③-②×④)×⑤×⑥/1,000
年間便益額	千円/年	969	⑦の合計

⑧ 屋根付き岸壁整備による陸揚・荷さばき時の準備作業時間の短縮

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(隻) ①	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)		
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(隻)		
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(隻)		
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)		
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)		
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(隻)		
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(隻)		
	その他刺網漁業(3~5 t)	(隻)		
	その他刺網漁業(5~10 t)	(隻)		
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年) ②		
	カレイ刺網漁業	(日/年)		
	タラ刺網漁業	(日/年)		
	ホッケ刺網漁業	(日/年)		
	その他刺網漁業	(日/年)		
対象作業人数	[乗組員]	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻) ③	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
		カレイ刺網漁業	(人/隻)	
		タラ刺網漁業	(人/隻)	
		ホッケ刺網漁業	(人/隻)	
		その他刺網漁業	(人/隻)	
	[陸上作業員]	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻) ④	
		カレイ刺網漁業	(人/隻)	
		タラ刺網漁業	(人/隻)	
		ホッケ刺網漁業	(人/隻)	
		その他刺網漁業	(人/隻)	
作業時間	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日) ⑤	
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	
		タラ刺網漁業	(時間/日)	
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	
		その他刺網漁業	(時間/日)	
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日) ⑥	
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	
		タラ刺網漁業	(時間/日)	
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	
		その他刺網漁業	(時間/日)	

区分		数量	備考
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	タラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	タラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10t) (円/時間)	2,228	
一般利用者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)	1,922	毎月勤労統計調査 地方調査(平成30年5月北海道総合政策部情報統計局)(別紙参照)
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	カレイ刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	カレイ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	タラ刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	タラ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	ホッケ刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	ホッケ刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
	その他刺網漁業(3~5t) (円/時間)		
	その他刺網漁業(5~10t) (円/時間)		
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	4,284	①×②×(③×(⑤-⑥))×⑦+④×(⑤-⑥)×⑧/1,000 ※漁船階層別・漁業種別に算出
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	22,667	
	カレイ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	690	
	カレイ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	3,438	
	タラ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	1,653	
	タラ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	9,033	
	ホッケ刺網漁業(3~5t) (千円/年)	1,663	
	ホッケ刺網漁業(5~10t) (千円/年)	6,640	
	その他刺網漁業(3~5t) (千円/年)	544	
	その他刺網漁業(5~10t) (千円/年)	2,247	
年間便益額	千円/年	52,859	⑨の合計

⑨ 道路・用地等の整備による車両の移動・駐車作業時間の短縮

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	15	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	13	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	3	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	14	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	4	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	10	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(隻)	11	
対象車両台数	スケトウダラ刺網漁業	(台/隻)	7	
	カレイ刺網漁業	(台/隻)	4	
	タラ刺網漁業	(台/隻)	5	
	ホッケ刺網漁業	(台/隻)	5	
	その他刺網漁業	(台/隻)	5	
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年)	120	
	カレイ刺網漁業	(日/年)	22	
	タラ刺網漁業	(日/年)	120	
	ホッケ刺網漁業	(日/年)	120	
	その他刺網漁業	(日/年)	26	
対象作業人数	スケトウダラ刺網漁業	(人/台)	1	
	カレイ刺網漁業	(人/台)	1	
	タラ刺網漁業	(人/台)	1	
	ホッケ刺網漁業	(人/台)	1	
	その他刺網漁業	(人/台)	1	
作業時間	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日)	0.35
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	0.35
		タラ刺網漁業	(時間/日)	0.35
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	0.35
		その他刺網漁業	(時間/日)	0.35
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日)	0.03
		カレイ刺網漁業	(時間/日)	0.03
		タラ刺網漁業	(時間/日)	0.03
		ホッケ刺網漁業	(時間/日)	0.03
		その他刺網漁業	(時間/日)	0.03
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228	
作業時間の短縮	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	3,474	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	8,983	
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	364	
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	816	
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	827	
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	5,989	
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	1,103	
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	4,278	
	その他刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	538	
	その他刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	1,020	
年間便益額	千円/年	27,392	⑧の合計	

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)

①×②×③×④×(⑤-⑥)×⑦/1,000
 ※漁船階層別・漁業種別に算出

(2) 漁獲機会増大効果

① 外郭施設整備による出漁機会の増加

区分			数量	備考
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業 (隻)		① 51	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象日数	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業 (日/年)	② 120	
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業 (日/年)	③ 132	
1日当たり漁獲金額	スケトウダラ刺網漁業 (円/日・隻)		④ 122,972	
所得率	スケトウダラ刺網漁業 (%)		⑤ 54.4	「北海道水産業・漁村のすがた2017」(北海道水産林務部)より算定
漁獲量の増大	スケトウダラ刺網漁業 (千円/年)		⑥ 40,941	①×(③-②)×④×⑤/1,000
年間便益額	千円/年		40,941	⑥の合計

(3) 漁獲物付加価値化の効果

① 屋根付き岸壁整備による魚価の安定化

区分			数量	備考
陸揚金額(税抜)	スケトウダラ刺網漁業 (千円/年)		① 802,312	H23～H27港勢調査より5か年平均値
	イカ釣り漁業 (千円/年)			
	ホッケ刺網漁業 (千円/年)			
	ホッキ桁網漁業 (千円/年)			
	ソブ籠漁業 (千円/年)			
	タラ刺網漁業 (千円/年)			
	カレイ刺網漁業 (千円/年)			
	カニ籠漁業 (千円/年)			
	タコ箱漁業 (千円/年)			
	エビ籠漁業 (千円/年)			
	その他刺網漁業 (千円/年)			
対象漁船トン数	スケトウダラ刺網漁業 (トン)		② 148	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
	イカ釣り漁業 (トン)			
	ホッケ刺網漁業 (トン)			
	ホッキ桁網漁業 (トン)			
	ソブ籠漁業 (トン)			
	タラ刺網漁業 (トン)			
	カレイ刺網漁業 (トン)			
	カニ籠漁業 (トン)			
	タコ箱漁業 (トン)			
	エビ籠漁業 (トン)			
	その他刺網漁業 (トン)			
漁船総トン数	スケトウダラ刺網漁業 (トン)		③ 390	
	イカ釣り漁業 (トン)			
	ホッケ刺網漁業 (トン)			
	ホッキ桁網漁業 (トン)			
	ソブ籠漁業 (トン)			
	タラ刺網漁業 (トン)			
	カレイ刺網漁業 (トン)			
	カニ籠漁業 (トン)			
	タコ箱漁業 (トン)			
	エビ籠漁業 (トン)			
	その他刺網漁業 (トン)			
魚価低下防止率	(%)		④ 10.0	直轄特定漁港漁場整備事業計画基礎資料作成その他業務報告書(H26北海道開発局)

区分		数量	備考
魚価の安定化	スケトウダラ刺網漁業 (千円/年)	30,447	①×②/③×④ ※漁業種別に算出
	イカ釣り漁業 (千円/年)	4,092	
	ホッケ刺網漁業 (千円/年)	402	
	ホッキ桁網漁業 (千円/年)	7,587	
	ソブ籠漁業 (千円/年)	4,005	
	タラ刺網漁業 (千円/年) ⑤	4,045	
	カレイ刺網漁業 (千円/年)	915	
	カニ籠漁業 (千円/年)	20,859	
	タコ箱漁業 (千円/年)	7,828	
	エビ籠漁業 (千円/年)	1,570	
	その他刺網漁業 (千円/年)	2,120	
維持管理費 (千円/年)	⑥	5,027	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
衛生管理関連施設事業費 千円	⑦	2,425,048	対象施設の事業費より設定
荷さばき所建設費用 千円	⑧	571,815	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
年間便益額 千円/年		63,799	(⑤の合計-⑥) × ⑦ / (⑦+⑧)

(4) 漁業就業者の労働環境改善効果

① 岸壁整備による出漁準備作業環境の改善

区分		数量	備考
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	15
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	13
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	3
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	14
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(隻)	4
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(隻)	10
	その他刺網漁業(3~5 t)	(隻)	9
	その他刺網漁業(5~10 t)	(隻)	11
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年)	120
	カレイ刺網漁業	(日/年)	22
	タラ刺網漁業	(日/年)	120
	ホッケ刺網漁業	(日/年)	120
	その他刺網漁業	(日/年)	26
対象作業人数	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻)	3
	カレイ刺網漁業	(人/隻)	2
	タラ刺網漁業	(人/隻)	3
	ホッケ刺網漁業	(人/隻)	3
	その他刺網漁業	(人/隻)	2
整備後の作業時間	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日)	1.50
	カレイ刺網漁業	(時間/日)	1.50
	タラ刺網漁業	(時間/日)	1.50
	ホッケ刺網漁業	(時間/日)	1.50
	その他刺網漁業	(時間/日)	1.50
作業状況ランク	[整備前]	(Bランク)	⑤ 1,137
	[整備後]	(Cランク)	⑥ 1,000
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228
	その他刺網漁業(3~5 t)	(円/時間)	1,436
	その他刺網漁業(5~10 t)	(円/時間)	2,228
作業環境の改善	スケトウダラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	956
	スケトウダラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	2,472
	カレイ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	117
	カレイ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	262
	タラ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	319
	タラ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	2,308
	ホッケ刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	425
	ホッケ刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	1,648
	その他刺網漁業(3~5 t)	(千円/年)	138
	その他刺網漁業(5~10 t)	(千円/年)	262
年間便益額	千円/年	8,907	⑧の合計

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)

①×②×③×④×(⑤-⑥)×⑦/1,000
 ※漁船階層別・漁業種別に算出

② 屋根付き岸壁整備による陸揚・荷さばき作業環境の改善

区分		数量	備考	
対象漁船隻数	スケトウダラ刺網漁業(3~5t)	(隻) ①	3	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t)	(隻)	14	
	カレイ刺網漁業(3~5t)	(隻)	3	
	カレイ刺網漁業(5~10t)	(隻)	13	
	ホッケ刺網漁業(3~5t)	(隻)	3	
	ホッケ刺網漁業(5~10t)	(隻)	10	
	その他刺網漁業(3~5t)	(隻)	3	
	その他刺網漁業(5~10t)	(隻)	11	
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年) ②	100	
	カレイ刺網漁業	(日/年)	37	
	ホッケ刺網漁業	(日/年)	20	
	その他刺網漁業	(日/年)	13	
対象作業人数	[乗組員]	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻) ③	3
		カレイ刺網漁業	(人/隻)	2
		ホッケ刺網漁業	(人/隻)	3
		その他刺網漁業	(人/隻)	2
	[陸上作業員]	スケトウダラ刺網漁業	(人/隻) ④	7
		カレイ刺網漁業	(人/隻)	4
		ホッケ刺網漁業	(人/隻)	4
		その他刺網漁業	(人/隻)	5
整備後の作業時間	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日) ⑤	4.75	
	カレイ刺網漁業	(時間/日)	3.09	
	ホッケ刺網漁業	(時間/日)	3.42	
	その他刺網漁業	(時間/日)	3.09	
作業状況ランク	[整備前]	(Aランク) ⑥	1,484	
	[整備後]	(Cランク) ⑦	1,000	
漁業者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5t)	(円/時間) ⑧	1,436	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t)	(円/時間)	2,228	
	カレイ刺網漁業(3~5t)	(円/時間)	1,436	
	カレイ刺網漁業(5~10t)	(円/時間)	2,228	
	ホッケ刺網漁業(3~5t)	(円/時間)	1,436	
	ホッケ刺網漁業(5~10t)	(円/時間)	2,228	
	その他刺網漁業(3~5t)	(円/時間)	1,436	
	その他刺網漁業(5~10t)	(円/時間)	2,228	
一般利用者労務単価	スケトウダラ刺網漁業(3~5t)	(円/時間) ⑨	1,922	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t)	(円/時間)		
	カレイ刺網漁業(3~5t)	(円/時間)		
	カレイ刺網漁業(5~10t)	(円/時間)		
	ホッケ刺網漁業(3~5t)	(円/時間)		
	ホッケ刺網漁業(5~10t)	(円/時間)		
	その他刺網漁業(3~5t)	(円/時間)		
	その他刺網漁業(5~10t)	(円/時間)		
作業環境の改善	スケトウダラ刺網漁業(3~5t)	(千円/年) ⑩	12,250	
	スケトウダラ刺網漁業(5~10t)	(千円/年)	64,816	
	カレイ刺網漁業(3~5t)	(千円/年)	1,753	
	カレイ刺網漁業(5~10t)	(千円/年)	8,736	
	ホッケ刺網漁業(3~5t)	(千円/年)	1,191	
	ホッケ刺網漁業(5~10t)	(千円/年)	4,758	
	その他刺網漁業(3~5t)	(千円/年)	728	
	その他刺網漁業(5~10t)	(千円/年)	3,008	
年間便益額	千円/年	97,240	⑩の合計	

調査日：平成30年7月13日
 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員
 調査実施者：室蘭港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

漁業経営調査報告書(平成29年12月農林水産省)より算定(別紙参照)

毎月勤労統計調査 地方調査(平成30年5月北海道総合政策部情報統計局)(別紙参照)

$① \times ② \times (③ \times ⑤ \times (⑥ - ⑦) \times ⑧ + ④ \times ⑤ \times (⑥ - ⑦) \times ⑨) / 1,000$
 ※漁船階層別・漁業種別に算出

③ 用地・道路等の整備による出荷時の集荷及び運搬作業環境の改善

区分			数量	備考	
対象フォークリフト台数	スケトウダラ刺網漁業	(台)	①	10	調査日：平成30年7月13日 調査対象者：いぶり中央漁協組合職員 調査実施者：室蘭港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象日数	スケトウダラ刺網漁業	(日/年)	②	120	
対象作業人数	スケトウダラ刺網漁業	(人/台)	③	1	
整備後の作業時間	スケトウダラ刺網漁業	(時間/日)	④	2.75	
作業状況ランク	[整備前]	スケトウダラ刺網漁業	(Bランク)	⑤	公共工事設計労務単価(H30) (別紙参照)
	[整備後]	スケトウダラ刺網漁業	(Cランク)	⑥	
一般利用者労務単価	スケトウダラ刺網漁業	(円/時間)	⑦	1,922	毎月勤労統計調査 地方調査 (平成30年5月北海道総合政策部情報統計局) (別紙参照)
作業環境の改善	スケトウダラ刺網漁業	(千円/年)	⑧	869	$① \times ② \times ③ \times ④ \times (⑤ - ⑥) \times ⑦ / 1,000$
年間便益額	千円/年			869	⑧の合計

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

■漁業者労務単価(H30)

- ・「平成28年漁業経営調査報告(農林水産省大臣官房統計部、平成29年12月)」により算出した。
- ・「漁業経営調査報告」個人経営体調査における3t未満～30t未満階層、100t以上及び小型定置網各階層の「雇用労賃」及び「雇用者延べ労働時間(海上、陸上労働の合計)」を用いて、1時間当たり漁業者労務単価を算出した。

	3t未満	3～5t	5～10t	10～20t	20～30t
延べ労働時間(雇用者:海上)	67	87	557	2,540	2,725
延べ労働時間(雇用者:陸上)	142	124	326	740	980
計①	209	211	883	3,280	3,705
雇用労賃(千円)②	212	303	1,967	7,099	6,732
労務単価(円/h)(②/①)	1,014	1,436	2,228	2,164	1,817

	100t以上	小型定置網
延べ労働時間(雇用者:海上)	42,639	778
延べ労働時間(雇用者:陸上)	2,828	423
計①	45,467	1,201
雇用労賃(千円)②	113,485	2,430
労務単価(円/h)(②/①)	2,496	2,023

■一般利用者労務単価(H30)

- ・「毎月勤労統計調査地方調査(北海道総合政策部情報統計局、平成30年5月)」により算出した。
- ・「毎月勤労統計調査」における「現金給与総額」及び「総実労働時間」を用いて、1時間当たりの一般利用者の労務単価を算出した。

年	現金給与総額 (円)	総実労働時間 (時間)	一般利用者 労務単価 (円/時間)	公表年月日	備考
H30(2018)	282,519	147.0	1,922	H30.5.7発表	H30年度使用

■ 漁業作業状況ランク(H30)

平成30年度使用漁業作業状況ランク

Aランクの基準値(Sa)	1.484
Bランクの基準値(Sb)	1.137
Cランクの基準値(Sc)	1.000

Aランク	事故・傷害・病気等の危険性が高い作業	報酬日額
とび工	高所作業で落下の危険性が高い	21,700
潜かん工	地下の気密な作業室内での作業で危険性が高い	32,200
削岩工	削岩機や爆薬を使用する作業で危険性が高い	25,900
トンネル特殊工	トンネル内での作業のため、危険性が高い	33,400
トンネル作業員		25,600
潜水士	海面下の作業のため、危険性が高い	38,200
山林砂防工	急傾斜地や狭隘な谷間での作業で危険性が高い	-
橋りょう特殊工	高所作業を伴い、落下等の危険性が高い	28,600
橋りょう塗装工		28,900
	平均報酬日額	29,313
	Aランクの基準値(Sa)	1.484

Bランク	重労働(通常作業よりも肉体的負担が大きな作業)	報酬日額
石工	人力での屋外作業が主体で重労働	-
ブロック工	人力での屋外作業が主体で重労働	21,100
鉄筋工	人力での屋外作業が主体で重労働	22,200
鉄骨工	人力での屋外作業が主体で重労働	22,900
普通船員	海上での作業で、重労働	20,700
潜水連絡員	海上での作業で、重労働	25,000
潜水送気員	海上での作業で、重労働	24,000
型わく工	人力での屋外作業が主体で重労働	21,400
建築ブロック工	人力での屋外作業が主体で重労働	-
	平均報酬日額	22,471
	Bランクの基準値(Sb)	1.137

Cランク	通常作業(比較的肉体的負担の小さな作業)	報酬日額
普通作業員	人力での屋外通常作業	16,300
軽作業員	人力での屋外軽作業	13,500
板金工	屋内での作業が主体	23,100
サッシ工	屋内での作業が主体	23,100
内装工	屋内での作業が主体	22,500
ガラス工	屋内での作業が主体	20,300
建具工	屋内での作業が主体	-
ダクト工	屋内での作業が主体	19,500
	平均報酬日額	19,757
	Cランクの基準値(Sc)	1.000

※報酬日額は、「公共工事設計労務単価(平成30年度)」による。

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3			ほぼ毎年のように事故や病気が発生	
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2			直近5年程度での発生がある	
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○		気象条件によっては船体動揺による事故の発生が懸念される	
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3				海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○		転倒・海中転落等の危険性がある状況での作業	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようなく軽いケガ	1				軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0~6	3	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5				極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3				風雨、波浪の飛沫等	
c.風雨等の影響を受ける場合がある		1					
d.当該地域における標準的な作業環境である		0	○	○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5				人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3	○		船体動揺等により常に平衡を取りながらの作業となるため、肉体的負担は大きい	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1					
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		○			
評価ポイント 計			6	0			
作業ランク			B	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16~13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12~6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5~0ポイント

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3	○		毎年、第1港区において車両とリフト、車両と車両の接触事故が発生している。	ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2				直近5年程度での発生がある
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1				
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3	○		冬期の岸壁凍結により、漁業者が海中に転落した事例がある。	海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2				転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようごく軽いケガ	1				軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0~6	6	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5	○		風雪の影響により厳しい環境下での作業である	極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
		b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3				風雨、波浪の飛沫等
		c.風雨等の影響を受ける場合がある	1				
d.当該地域における標準的な作業環境である		0		○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5				人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3	○		立膝、正座での腰部への負担が大きい姿勢での長時間の作業である	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1		○			
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0					
評価ポイント 計			14	1			
作業ランク			A	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16~13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12~6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5~0ポイント

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3	○		毎年、第1港区において車両とリフト、車両と車両の接触事故が発生している。	ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2				直近5年程度での発生がある
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1				
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3				海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○		漁業活動と通行車両の輻輳により、作業時に交通事故発生が懸念	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようなく軽いケガ	1				軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0~6	5	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5				極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3				風雨、波浪の飛沫等	
c.風雨等の影響を受ける場合がある		1	○		凍結した道路上でのフォークリフト運搬作業であり、厳しい環境下での作業である		
d.当該地域における標準的な作業環境である		0		○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5				人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3				長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1					
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0	○	○			
評価ポイント 計			6	0			
作業ランク			B	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16~13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12~6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5~0ポイント